

京古本や往来

私と映画

庄林二三雄

私が初めて本と出会ったのが四歳だったように思う。それは私が初めて映画を観て感激したのと同じ年だからである。地方の映画館で日活京都の大作「荒木又右衛門」を観て時代映画に魅せられた私は親にねだって「日活画報」を毎月買つてもらうようになつたのである。毎号の表紙には大河内伝次郎をはじめ日活の代表的な剣戟スターの似顔絵があった。昭和七年のことである。写真を眺めるだけで満足できなくなつた私は母親に字を教えてもらつた。小学校へ行く前の私が漢字や假名文字をおぼえていたのは映画雑誌を読みたいためである。そのおかげで小学校へ行つても国語に苦しむことはなかつた。同級生が「サイタ、サイタ、サクラがサイタ……」と黄色い声をはりあけているとき私だけは漢字の本を読んでいるといった具合であった。小学校一年生の最初

の图画の時間にかいた絵が「丹下右膳」である。私は「丹下左膳」をかいつつもりながら左とくのを右とかきまちがえたのだ。母親がそれを教室にはつてあるのを見たときは頬から火が出るほど恥ずかしかつたようである。

こんな具合だから私の幼少時代はかなり異才を放つていたらしい。映画館にも実によく通つた。母親が大河内伝次郎のファン、父親が阪東妻三郎のファンという関係でこの二人の時代映画が中心だった。この二人の時代映画が中心だったので意味はわからないが、その名調子に血湧き肉躍る感激があった。小学校では先生が将来何になりたいか漢文調の難解な文句が多いので意味はわからないが、その名調子にいつたものである。そのような名解説を集めた本も出版されていた。

（筆者略歴紹介）

昭和二年七月二十五日生まれ。
京都大学経済学部卒業。
京都府庁に二年間奉職。
昭和四九年六月より地域経済研究所長。かたわら立命館大学講師（中小企業論の演習を担当）、通産、労働、農林水産等各省をはじめ京都府、京都市、滋賀県の各審議会の委員に就任。

著書に、有斐閣『日本の文化産業』同『日本の中小企業』他多数。又、KBS京都テレビ『タイムリーラン』のレギュラー・ゲストとして御活躍中！

季刊	第17号
京都古書研究会	
発行	
〒604	京都市中京区東洞院六角上ル 京都府古書籍商業協同組合内
振替	京都221320円 年間購読料 500円 (送) 150円
領価	

足らなくなつた私は映画の原作になつた大衆文学作品を読むようになる。林不思の「丹下左膳」は私の最愛の書である。正式には「大政談・鈴川源十郎の巻」が最初の作品である。そこでは丹下左膳は協役に過ぎなかつたが、映画化したときに丹下左膳を主役にしたに過ぎない。ところがこれが大ヒットしたので、次の作品では丹下左膳を主人公にしたもののが出版されたのである。

昭和十年代にはいると映画に声がつくようになつたので、主題歌が盛んになった。懐かしのメロディーの大部分は当時の映画主題歌である。私もこの名調子にすつかり魅せられてしまつたのである。暮末物では必ず東山三十六峰静かにねむる頃……という解説がはいつたものである。そのような名解説を集めた本も出版されていた。

このあたりでベンをおく。

昭和二年七月二十五日生まれ。
京都大学経済学部卒業。
京都府庁に二年間奉職。
昭和四九年六月より地域経済研究所長。かたわら立命館大学講師（中小企業論の演習を担当）、通産、労働、農林水産等各省をはじめ京都府、京都市、滋賀県の各審議会の委員に就任。

著書に、有斐閣『日本の文化産業』同『日本の中小企業』他多数。又、KBS京都テレビ『タイムリーラン』のレギュラー・ゲストとして御活躍中！

（活動写眞の弁士）は風変りであつた。（当時、映画を活動写眞と呼んでいた。）

やがて映画を観るだけでは飽き

（1）

近世京都の本屋(三)

宗政五十緒

刊の『懇心僧都念佛法語便蒙』、つづいて、安政四年、五年刊の前掲書、安政六年刊の『真宗安心茶店問答』、刊年未詳のものに『功徳大宝海』、『往生礼讃偈』、『蓮如上人御伝記』がある。

また、『懷宝正信偈御和讃』を

永田調兵衛・丁字屋庄兵衛・丁字屋卯兵衛、と相合板で出版し

た。その経緯の知られる記録がある。

『為取替証文之事

とち本全念仏改悔文御代々

入

一、懷宝正信偈御和讃 平仮名付

右板行各々所持仕候間、右御和讃各

に付、我等方には、右半仮名付御和讃品々所持仕候間、右御和讃各

々にて板木御影被成度候に付、

板下を以、我等方へ六軒相合に相

成、壱軒分板木白板にて御渡し被成、板貨壱部に付、通用銀丸板貨

六分と相立候は、壱軒分壱分宛相

定に相成候様、御對談被下候得共、

御断申候處、此度金屋勘作殿御取

扱以、六軒相合にて通用銀六分

板貨之處、丸板貨七分と相立、我

等方へは式分宛の板貨御渡し被成

候て相合に被成候御對談出来致、

御互に祝着致候、然る上は右御和

讃御願済之上、新刻被成候はば、

六軒割之壱軒分我等方へ此度は白

板にて板木御渡可成御約定仕候

処、相違無御座候、然る上は我等

方にて大和とぢ平仮名付存寄之新

十六 丁字屋七兵衛
丁字屋、西村七兵衛家は現在も続いて仏教書を中心にして盛んに出版活動をしている。下京区正面烏丸東入る町の法藏館書店がそれである。

最近、店の構えも現代にふさわしい出版社に改築しているので、町を通る人にも百年を超える歴史を有する出版社というよりも、仏教書ブームを創り出す出版社としてイメージされるのはなかろうか。

この店は先年、『仏教書出版三十〇年』という店の歴史を書いた單行本を頒布されたので、その活動の様子は手にとるように判明する。本屋が自店の歴史を一書に編んでくれるのはよろこばしいことである。以下のこの店の歴史はこの書に拠った。

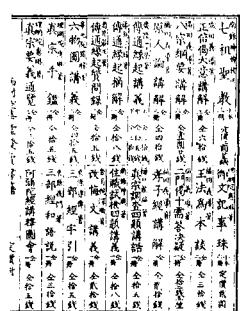
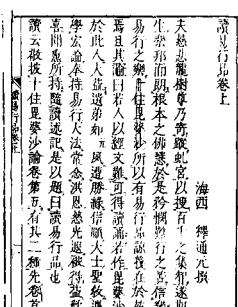
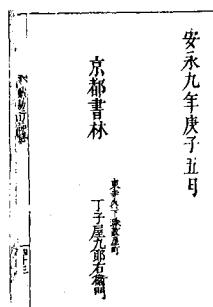
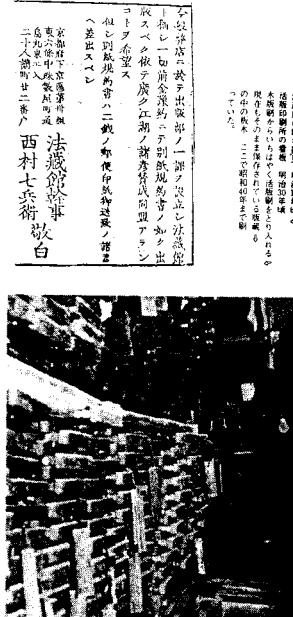
丁字屋七兵衛の初代は天保二年(一八三二)九月に生まれ、二十歳の嘉永二年(一八五〇)年九月に分家して店を開いた。本家は江戸時代初期から続いていた著名な本屋、丁字屋西村九郎右衛門家である。だから、法藏館は本家の開肆から算えると三六〇年の長きに

亘つて出版の営業を続けているわけである。この家は初代九郎右衛門が大阪の人で、大阪落城ののち、京都に上り、百万遍の善導院に寓居し、やがて、五条橋通り扇屋町(または万寿寺町ともいう)に住んで丁字屋を号して本屋になったのである。八代目の時、東本願寺の寺内町である下珠数屋町東洞院西入る橘町に移り、浄土宗から東本願寺の門徒に改宗した。十代目の三男、末子が分家して丁字屋七兵衛である。幼名を末吉、また、万次郎ともいった。

七兵衛も同じく東本願寺の寺内町の上珠数屋町烏丸東入る町の北側で本屋を開業したのである。幕末のことである。堂号を雲華堂といつた。

初代から図書の小売と同時に、本家と相合版で仏書を刊行した。安政四年の『稽古正信偈和讃』、同五年の『漢音阿弥陀經』がある。『仏教書出版三六〇年』には法藏館の出版総目録の年表が載っている。

最も夙い出版は嘉永七年の『お千代物語』で、ただしこれは二十六の小冊子である。次が天保三年



刻致候共、決して御差構不被下旨、御対談出米候に付、我等にて平仮名付之とち本は決て仕間敷候、右之通御約定御対談出来致候上は少しも違背申間舗候、為後日之為取替証札依て如件、
安政四年已十二月

丁字屋卯兵衛印

永田調兵衛殿
丁字屋庄兵衛殿
丁字屋九郎右衛門殿
丁字屋七兵衛殿

前書の通相違無御座候、右御約定申上候上は薄葉摺相互に摺立之節、各々方は巻分五厘宛御渡し申上、我等方えは三分宛御渡候、此分御約定に御座候事。

丁字屋卯兵衛殿

一、懷宝正信偈御和讚 平仮名付
小本とち本 全壹冊
念仏改悔文御代々入

右之板行、銘々申合新板仕度候處、其元方には平仮名付御和讚大和と

ぢ品々御所持被成候に付、右どち本我等方にて板木彫立其元殿方へ六軒割之毫軒分板木白板にて相渡、

右本毫部に付、丸板貰六分と相定、御対談難出来之處、此度金屋勘作殿御取扱を以、六軒相合にて右丸板貰六分に相立、毫軒分毫部に付、

毫分宛之割方に相成候處、右丸板貰七分と相定、其元殿えは毫部に

付通用銀式分宛為板貨出し可申御対談にて御承知被成下、御互に名付之とち本は決て仕間敷候、右之通御約定御対談出来致候上は少しも違背申間舗候、為後日之為取替証札依て如件、
安政四年已十二月

持之儀に付 大和とち之御新刻被成度候は、我等方銘々決て差構等

は申間敷候、尤、とち本にて思召

立、新彌被成候儀は相間敷御對

談御約定申候上は、御互に少しも

違背仕間舗候、為後日依て如件。

安政四年已十二月

永田調兵衛印

丁字屋庄兵衛印
丁字屋九郎右衛門印
丁字屋七兵衛印

菱屋友七郎印

丁字屋卯兵衛殿

前書の通相違無御座候、併、薄葉摺致候節は其元殿方へ三分宛相渡、其外は毫分五厘宛にて御約定御座候事。

右は永田調兵衛家の記録『商用諸雑記』十一に見える文書の写しである。

右の板行の名が丁字屋九郎右衛門と並んで見える。これは永田調兵衛外、計五軒が板行を計画した『懷宝正信偈御和讚』が丁字屋卯兵衛の藏板の正信偈御和讚と

差構えになつた、重版、あるいは、類板、として出版が差留められたのである。これを金屋勘作が調停

付通用銀式分宛為板貨出し可申御対談にて御承知被成下、御互に名付之とち本は決て仕間敷候、右之通御約定御対談出来致候上は少しも違背申間舗候、為後日之為取替証札依て如件、
安政四年已十二月

持之儀に付 大和とち之御新刻被成度候は、我等方銘々決て差構等

は申間敷候、尤、とち本にて思召

立、新彌被成候儀は相間敷御對

談御約定申候上は、御互に少しも

違背仕間舗候、為後日依て如件。

安政四年已十二月

永田調兵衛印

丁字屋庄兵衛印
丁字屋九郎右衛門印
丁字屋七兵衛印

菱屋友七郎印

丁字屋卯兵衛殿

前書の通相違無御座候、併、薄葉摺致候節は其元殿方へ三分宛相渡、其外は毫分五厘宛にて御約定御座候事。

右は永田調兵衛家の記録『商用諸雑記』十一に見える文書の写しである。

右の板行の名が丁字屋九郎右衛門と並んで見える。これは永田調兵衛外、計五軒が板行を計画した『懷宝正信偈御和讚』が丁字屋卯兵衛の藏板の正信偈御和讚と

差構えになつた、重版、あるいは、類板、として出版が差留められたのである。これを金屋勘作が調停

に入ったて出板できるようになつた事件の文書の写しである。五軒の本屋から丁字屋卯兵衛に出板一部

宛、銀二分支払うことになつたのである。江戸時代の重板・類板処理の記録の一例である。

丁字屋七兵衛の二代目は安政元年二月に生まれ、明治九年、西村家に婿に入つて七平と称したので、江戸時代のこの店は初代のみである。『仏教書出版三六〇年』は明治・大正・昭和に至るこの店の仏教書出版の活動を詳しく記している。

(付記)『商用諸雑記』の閲覧を許可された京都府総合資料館に厚く御礼申し上げます。(龍谷大学教授・文学博士)

お わ び

第十六号の本文および広告中に左記三点の誤りがありましたがので、次のように訂正しておわびいたします。

●八ページ 京都古書店案内図の送料、一二〇円は一七〇円の誤りですので、郵送ご希望の方は、おまちがえないようお願いします。

●八ページ 新刊紹介記事中、吉田光邦評論書 定価三、九〇〇円は、吉田光邦評論集、定価(各)二、九〇〇円の誤りです。

●二四ページ 思文閣出版広告中、能楽研究(一)の定価、および全巻予約特価は、次のように訂正します。

○定価四、二二〇円
全巻予約特価四、〇〇〇円

○定価四、二二〇円
全巻予約特価四、〇〇〇円

○定価五、〇〇〇円
全巻予約特価四、八〇〇円

○定価五、〇〇〇円
全巻予約特価四、八〇〇円

○定価五、〇〇〇円
全巻予約特価四、八〇〇円

誤りが多く読者の皆様にご迷惑をおかけしました事をおわびいたします。今後共、校正等には細心の注意をいたします。よろしくお願ひいたします。

（編集部）

思わぬ出費!

その様な時、御利用下さい。

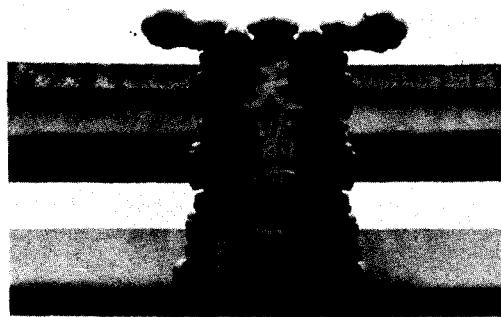
・出町店・京都市上京区河原町今出川上る

☎ 231-7711番

・衣笠店・北区西大路通り平野神社北隣

☎ 462-3371番

Z ENSHOD 本専門の質屋
善書堂



天神さんの古本市

東方書店 畠山慶雄

写真撮影：萩書房

菅原道真の命日にあたる毎月、二十五日に催される北野天満宮の祭礼を人々は「天神さん」と呼んでいます。創設以来一千余年の歴史を持つこの北野天満宮の名称にも明治維新时期に大きな変化がありました。明治初年に「神仏分離」、「神仏判然」の太政官布告等が出され、時の京都府大參事、楳林正直によつて、祇園社が八坂神社に改名を強いたられた同時期に、北野天満宮も北野神社に改名を余儀なくされ、戦後まで続いたのである。北野天満宮の名称が復活したのは、昭和二十年であるが、これはやはり本来自然の姿に戻ったというべきであろう。このような経緯があつたにもかかわらず、國家権力は、庶民感情までは支配も抑圧もできず、「天神さん」の呼び名は改名された後でも変わらなかつたと思う。まさに事実に於いて、この社は北野神社ではなく、北野天満宮であり、「天神さん」と呼ぶのがふさわしいよう私には思われる。

賑う祭礼日！ 数百の露店

さて、この天神さんの祭礼日には、この境内とその周辺には数百を数える露店が屋台を連ね、早朝から夜遅くまで終日活動を呈するのである。訪れる人は二十万人前後もあるという。古道具、植木、乾物、玩具、衣料、食べもの等々多種多彩な出店の中に古本屋もそ

の太政官布告等が出され、時の京都府大參事、楳林正直によつて、祇園社が八坂神社に改名を強いたられた同時期に、北野天満宮も北野神社に改名を余儀なくされ、戦後まで続いたのである。北野天満宮の名称が復活したのは、昭和二十年であるが、これはやはり本来自然の姿に戻ったというべきであろう。このような経緯があつたにもかかわらず、国家権力は、庶民感情までは支配も抑圧もできず、「天神さん」の呼び名は改名された後でも変わらなかつたと思う。まさに事実に於いて、この社は北野神社ではなく、北野天満宮であり、「天神さん」と呼ぶのがふさわしいよう私には思われる。

菅原道真の命日にあたる毎月、二十五日に催される北野天満宮の祭礼を人々は「天神さん」と呼んでいます。創設以来一千余年の歴史を持つこの北野天満宮の名称にも明治維新时期に大きな変化がありました。明治初年に「神仏分離」、「神仏判然」の太政官布告等が出され、時の京都府大參事、楳林正直によつて、祇園社が八坂神社に改名を強いたられた同時期に、北野天満宮も北野神社に改名を余儀なくされ、戦後まで続いたのである。北野天満宮の名称が復活したのは、昭和二十年であるが、これはやはり本来自然の姿に戻ったというべきであろう。このように私には思われる。

賑う祭礼日！ 数百の露店

さて、この天神さんの祭礼日には、この境内とその周辺には数百を数える露店が屋台を連ね、早朝から夜遅くまで終日活動を呈するのである。訪れる人は二十万人前後もあるという。古道具、植木、乾物、玩具、衣料、食べもの等々多種多彩な出店の中に古本屋もそ

の一角を占めている。昼夜にわたって催される天神さんの露店市は、四季折々の情景をくりひろげ、まさに風物詩である。ただ古本市の場所は、境内ではなく、略岡で表示してある通り、正面鳥居から今出川通りをへだてて御前通りをおよそ一五〇メートルほど下る間の道路上である。毎月二十五日には、ここで古本市が盛大に催される。十

数年前までは、境内の一部を使用して、広い芝生に円陣を構えるような配列で催して来たが、その場所に西陣警察署がたち、立ち退きを余儀なくされて現在の場所へ移転したものである。境内の一部を使用して古本市を催していた頃は、出店数も三十余と多く、芝生を閉んでの営業は、場所的にも恵まれず、「天神さん」の呼び名は改名された後でも変わらなかつたと思う。まさに事実に於いて、この社は北野神社ではなく、北野天満宮であり、「天神さん」と呼ぶのがふさわしいよう私には思われる。

“天神さん”古本市今昔！

毎月の祭礼日には、天気が良ければ古本市は早朝九時前後から準備にとりかかり、十時頃から開店という運びになる。もつとも準備している間にも客が次第に増えてきて、準備が完了するまでにもかなりの売上げができるようになる。

一灯であったが、現在では一店当たり二灯、三灯、さらには四灯を使用する店もあり、このことからも一店毎の店の広さが相像されるところである。ところで天神さんの古本市は、昼のそれとは違った点灯、夜の古本市に移行する。夜

の古本市は、昼のそれは違った目したいと思う。彼等の今後の発展に注目したいと思う。

の古本市は、昼のそれとは違った点灯、夜の古本市に移行する。夜

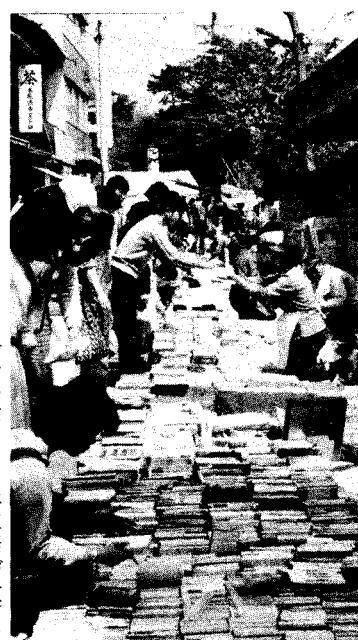
の古本市は、いつ頃から行われていたものか、その歴史についてよくわからない。調べてみれば興味ある事実が発見されるかも知れない。明治期にも、それ以前に用する店もあり、このことからも一店毎の店の広さが相像されるところである。ところで天神さんの古本市は、いつ頃から行われていたものか、その歴史についてよくわからない。調べてみれば興味ある事実が発見されるかも知れない。明治期にも、それ以前に用する店もあり、このことからも一店毎の店の広さが相像されるところである。ところで天神さんの古本市は、いつ頃から行われていたものか、その歴史についてよくわからない。調べてみれば興味ある事実が発見されるかも知

り、昏黃ともなれば全店が一齊に文字通り牧歌的な雰囲気に包まれていたものである。しかし今は、そういったものがいさぎか失われてしまつたのは残念である。このようになんかに不利益な一面はあるものの天神さんのあるこの日ばかりは、この通りは終日車の通行が禁止されるので、客も業者も安心して売買に専念できるのは何といってもありがたい。そして古本市が現在の場所に移つて早くも十数年、いまやようやく定着化に成功している。

ところで、現在の古本市には十人の業者が出店している。この中で四人が古書研究会の会員であり、私を除いた三人は新進の青年である。季節によつて時間の違いはある

時頃まで続いて賑うのである。またこの客足は曜日にも大いに関係があり、例えば日曜日には昼間が多く夜には多少落ち込み、又土曜日は往復にわたつて多いという具合である。

古くはローソク、明治期に入つて、ローソクまたは石油ランプ等が使われたのではないかと考えられるが、はたしてどうであつたのだろ



ていたのだろうか。その辺のことろはよく分らない。なにも古本市に限らないが、夜店の歴史は灯火の変遷と大いに関係があるように思われる。これは伝聞だが、街路電灯が導入された大正期、さらにその後もしばらく昭和初期までは、天神さんの夜店は灯火にガス（カーバイド）灯を使っていたということがある。太平洋戦争時には、灯火の使用が許されないために夜店が不可能になり、続いて敗戦後は古本市それ自体が中断され、それが復活したのは昭和二十二年三月頃からである。

古本市の商品分野と客層

この古本市の商品は、まんが本、児童本、絵本、文庫、小説本、婦人のもの、趣味本、月刊雑誌類、古いものは、絵はがき、切手、スタンプ、美術本、版画、肉筆もの等多種多様である。かつて境内で行われていた古本市と比較すれば、現在は店の数では減っているものの、一店分の分量がかつてのそれよりも数倍も増えており、はるかに充実したものになつているといふことができる。ただ、まんが本、小説本、児童本、文庫等は各店共通しており、分量も全体の半分以上を占めているのでどうしても競合は避けられない。したがってそういう共通の種類のものでは、比較的新らしいもの、売ゆきの良



いものをより多く陳列準備するといふのが売上げ成績の決め手ともなる。天神さんの古本市の客層、客筋についていつてみれば、厳密に分析したわけではないが、『京都古書研究会』主催の「百万遍古本まつり」の客層とはかなりの違ひがあるということである。一部分共通した客層もみられるが、それは極く一部分であり、本格的な古書を探求する客は少ないようである。これにはいろいろの事情がある。考えられるが、天神さんの古本市は恒例とはいえ、月一回一日限りという制約と、たまたま雨天になれば中止せざるを得ないという不利な条件が大きく作用しているからだ。しかしこれは業者側が主体的努力を強め、陳列品の内容

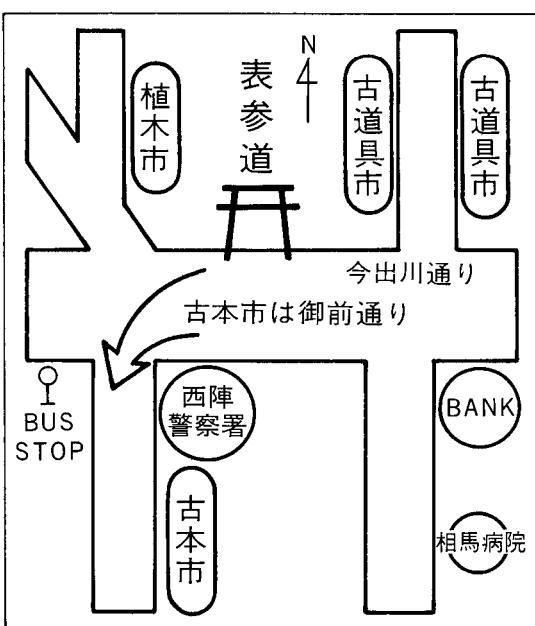
天神さんの古本市に出店している天神さんの古本市に出来て楽しめの一つは、何といっても客との対話であり対応であろう。十人十色というが実にさまざまの客がある。本を買うのに値切る客もかなり多い。値切らねば損だと決めてかかっている客もある。もつとも値切るたのしみも天神さん

天神さん古本市悲喜色々！

天神さんの古本市にて楽しめの一つは、何といつても客との対話であり対応であろう。

天神さんの古本市での最大の難点、弱点は、なんといっても天候

天神さんの古本市での最大の難点、弱点は、なんといつても天候



京都の書物誌

資料提供

編 集

大学堂書店
藤原北御所書房

BUCH 善書堂

本誌『京古本や往来』も発行回数を重ね第十七号を皆様のお手元にお届けする事が出来ました。現在、京都における書物誌らしきものは本誌のみですが、以前にどのような書物誌が発行されたのかを探索してみました。出版会社、新本取次店、古書業者、図書館関係者、愛書家同好会、製本業者、団体、個人問わず発行されたようです。紙面の関係上まず全国的に主なものを昭和二七年まで列記し、その後京都関係の六点について、紙面体裁、執筆者、内容、発行回数、発行主旨、等について知る事ができた範囲で記しました。

想典ほん苑	日本図書新報	図書評論	図書の葉	読書趣味	どうじよもひ	あふ	国書新報	国書館雑誌	出版月評	高潮	図書月報	讀書の友	讀書の世界	讀書月報	帝都書籍新報	弘南藝文庫	図書月報告	東壁	東の燈	書自月報	出版月評	出版月報	出版評論	出版新報	誌名				
																									創刊年月	発行所(者)			
T 4 11	T 4 4	T 3 8	T 1 10	M 45	M 43	M 42	M 41	M 40	M 40	M 39	M 39	M 38	M 36	M 35	M 34	M 34	M 34	M 34	M 34	M 34	M 30	M 29	M 26	M 25	M 23	M 20	M 19	M 17	トトロ
想古書苑保存会	開同好益社	古書評論社	開同好益社	大日本美術学会	吉川弘文館	大洋堂書店	吉川弘文館	内外出版協会	日本文庫協会	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社	東京帝都社

書公私春秋志	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	日本本邦会	北隆館月報					
																									奇書珍籍					
S 5 10	S 5 9	S 5 8	S 5 5	S 5 3	S 5 1	S 4 11	S 3 6	S 3 2	S 2 11	S 2 7	S 2 4	S 2 1	S 1 10	S 1 8	S 1 5	S 1 5	S 1 5	S 1 5	S 1 5	T 1 10	T 1 13	T 5 3								
書物春秋会	古本武外骨春秋会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会		

讀書雑誌部	同好会	訪書会	典籍会	書評会	訪本	讀書会	圖書館事業	書物通信	手稿	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	北隆館月報												
																									奇書珍籍				
S 21 7	S 14 11	S 14 5	S 12 11	S 11 11	S 11 11	S 11 11	S 10 10	S 10 10	S 10 5	S 9 5	S 9 5	S 9 5	S 9 1	S 9 1	S 9 1	S 9 1	S 9 1	S 8 10	S 8 6	S 8 5	S 8 2	S 8 1	S 7 7	S 7 7	S 6 11	S 6 8	S 6 7	S 5 11	S 5 5
日本本邦会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	同好会	

讀書会	書評会	圖書館事業	書物通信	手稿	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	讀書展望					
																								讀書展望					
S 27 3	S 27 1	S 25 5	S 24 11	S 24 7	S 22 8	S 21 12	S 21 11	S 21 10	S 21 9	S 21 8	S 21 7	S 21 6	S 21 5	S 21 4	S 21 3	S 21 2	S 21 1	S 21 0	S 21 9	S 21 8	S 21 7	S 21 6	S 21 5	S 21 4	S 21 3	S 21 2	S 21 1	S 21 0	日本自由出版協会
日本出版販売会	同好会	書評会	圖書館事業	書物通信	手稿	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	書物	日本自由出版協会

●ほんや●

古典籍「細川開益堂」が発行されたものであり、表紙は昔の書肆の店頭風景を縮図、上部に「ほんや」と染めたのれんを掲げたものである。大正四年四月の創刊で、三号までは月刊、四号から隔月発行となり、毎号菊判で百頁内外、定価は一部五錢、本来の目的は古書販売目録で、巻頭に専門家の図書研究の記事を四、五名から十名ぐらい収載されている。常業誌とはいえない純図書研究誌としてもそうとう権威あるものだった。発刊の辞は森鷗外。以後、新村出、藤井乙男、井上和雄、伊藤長藏、三村竹清といった諸名家の寄稿を連載していたが、充実した内容もぐらり収載されている。

當業誌とはいえない純図書研究誌としてもそうとう権威あるものだった。発刊の辞は森鷗外。以後、新村出、藤井乙男、井上和雄、伊藤長藏、三村竹清といった諸名家の寄稿を連載していたが、充実した内容もぐらり収載されている。

以下は、表紙のみ従来の面目を保つ

ついたが、研究的記事はまつた
くくなり鉄筆のやり版刷りとな
り刊行されてしまった。

● 冊府 ●

篠文堂（丸太町通り寺町下る）
の機関誌をかねた書誌であつた。

主として支那関係の本を取り扱う
書店のところから「冊府」と支那

趣味に命名したものである。

四六判二十頁前後のもので、大正
五年十月創刊、年六回發行され十
一冊程度發行されたようである。

一号から八号までの主な内容は次
のとおりである。

○ 游生堂書約 滝川承業

○ 勝河代高訪古行程小記 梅原 生
○ 嫩窓筆鈔 黒風白雨楼 羅福菴

○ 筑山精舍讀書記 野狐禪店

○ 日本の墓誌 梅原 生

○ 近頃支那文学史書評判記 瓢公

○ 景祐天竺字源書俊 羅福菴

○ 游漫筆 羊庵

○ 偶話 北鴻子

○ 支那の諺に就て 豚平

○ 清朝經師經義 繆峯孫

○ 修藏雜筆 梅仙庵

○ 中箱本源流 白水生

○ 漢字を修める順序 黒風白雨樓 江馬務

○ 伝奇雜劇評判の評判 瓢公

○ 道遙遊 南華老人

○ 芸能閑話 眺東樓

○ 書物礼讃 ●

創刊は大正十四年六月。大学堂
(現在、河原町通三条下る) 発行
時は三条通寺町東入から出したも
ので、年四回の発行、昭和五年、

○ 書物禮讃書物屋不禮讃 花柴生

○ EX LIBRIS 西村貫一

○ 破邪痛言 金丸経

○ 江戸自慢と 深慨生

○ 風流眠氣さまし 前川清二

○ 慢性出鱗日 板原七之助

○ 増訂好色本目録 柳亭種彦

○ 書狂闇談 富岡謙三

○ 書物好色本目録 創刊は年二回、第

十号頃から逕刊となり年二回、第

十号と十一号では一年の間隔を生

じたが、当時の書物誌としては最

高の内容であった。

● 京わらべ ●

販売目録を兼ねた一種の書誌で、
毎号五十頁前後、限定五百部の發

行。定価は三十五銭。執筆者の主

なものは新村出、矢野峰人、成瀬

無極、杉浦丘園、山県五十雄、近

藤真澄、亀田次郎、佐古慶三、菅

竹浦、糸代祐祥、上田恭輔、尾崎

久彌、鈴木大拙、吉沢義則、内藤

湖南、穎原退藏、鈴鹿三七、神代

種亮、石川敏、等々と賤やかなも

のであった。参考として第五号の
目次を列記してみる。

○ 世界言語志の古版本 新村出

○ 明治初年に於る京都出版書目
二号は十月に発行したが、第三号
以下は出なかつた。

● 洛西 ●

キクオ書店(現在、河原町通り
三条上ル)が昭和七年四月に第一
号を発行した。第一号の巻頭には、

明治大正年間「婦人問題」ノ書名
ヲ有スル文獻三

せるふ・えんじよいんぐ 中川新吾

「書物目録の『目録』 飯野一

の三人の寄稿があり販売目録に十
八頁とっている。文献記事は第四
号迄で、それ以降は販売目録ばか
りとなり十五号くらいまで出た。

● 書燈 ●

成堂、旭堂、京屋、春正堂、
国井書店、マキムラ書店、創造社、
一信堂、クリヤ書房、阪倉書店、

書店、進文堂、叢文堂の古書店が
連合して発行したものである。昭

和八年一月に創刊。

「京洛に果くふ古本屋の志を同じ
くするというコリ方であつた。發

刊の主旨はなかつたが巻末記とし
て、「書物が好きな處から、唯漫
然とそう云ふ雑誌を出したいたと云
ふ考へからで、毎号多少の欠損は
覚悟の上で出来るだけ永く続けた
いと望んで居ります。」としてあり

と想ひます。」としてあります。
これら記事が後日單行本に収容

されたものも多い。しかし、第九、
十号頃から逕刊となり年二回、第

十号と十一号では一年の間隔を生
じたが、当時の書物誌としては最

高の内容であった。

号には末川博士が、古書肆の進む
おもてに出したもののである。第一

号には末川博士が、古書肆の進む
べき道と業界の無節制な競争につ
いての忠告があり、百貨店との関

係の是非を論じてある点は、今で
も大いに参考となるであろう。だ
いたいは季刊で第三号からは単なる
販売目録となつてしまい第
十四号くらいまで出たらしい。



禪林句集

柴山全慶老師輯
定価1,500円送料250円

佛教書取り揃えております
葉書にて御照会下さい。

其 中 堂 振替京都538
TEL.231-2971

〒604 京都市中京区寺町通三条北

探求書コーナー

このコーナー利用者は定期購読者に限ります。

定期購読者の方で探求書掲載希望の方は、編集部までお知らせ下さい。尚紙面の関係上、探求書多数の方の場合は一部削愛するか、残りを次号廻しとさせていただく場合もございますのでご了承下さい。

〒600 京都市下京区七条大宮西 藤本完次

又は、京都市下京区七条通堀川角 谷書店
○復刻版新青年 全13巻揃 昭53頃 沢古書院

〒603 京都市北区西大路通平野神社北隣 善書堂

○講談社版 浮世絵 美人画・役者絵 全7冊
○土族反乱の研究 青木書店 後藤靖著
この「土族反乱の研究」は何冊でも結構ですのでよろしくお願ひいたします。

〒782 高知県南国市西山一-一一二三 田中淹治

○国書総目録 第四卷 岩波書店
○土佐日記の新古刊本写本、土佐に関するもの等をさがしておりますのでよろしく!

〒603 京都市北区小山下総町三八-十七 鳴田敬介

○心で起きる体の病 池見西次郎著

〒616 京都市右京区御室大内町四 京都府立藝学校 岡本福丸
○京都府教育史 上巻 昭15年

〒471 豊田市寿町二-一四六 金岡弘

○競輪 (三一新書) 富士正晴著
○潔魂 富士正晴著
○臂・久坂葉子伝 河出書房 富士正晴著
○帝國陸軍における學習 未来社 富士正晴著
何れも美本、カバー又は函付の完全本を希望!

〒607 京都市山科区東野井上町二四 小松正志
○邦訳 太陽にかける橋 昭33 小山書店新社

〒709-12 岡山県児島郡瀬崎町西高崎一五 名合勝夫
○信仰の遺産 昭16 岩波書店 岩下壯一著

★探求書掲載申し込み先★

〒604 京都市中京区東洞院六角上る
京都府古書籍商業協同組合内
京都古書研究会『京古本や往来』編集部

一古書研だより!

本誌第十七号より編集スタッフを刷新し、読者の皆様の要望に答え今回より探求書コーナーも設けました。編集長 藤井文政堂のもと各号編集陣も毎号新しい企画を盛り込むつもりです。左記に以後各号のスタッフを紹介します。

盛り込むつもりです。左記に以後各号のスタッフを紹介します。

盛り込むつもりです。左記に以後各号のスタッフを紹介します。

盛り込むつもりです。左記に以後各号のスタッフを紹介します。

定期購読継続ご希望の方へ!

年間購読料 500円(四回発行)
※今回より新企画の探求書コーナーは定期購読者に限りますので、この機会に定期購読を、お始めになるようご案内申し上げます。

編集長 藤井文政堂 ○印はチーフ

○善書堂 萩書房
○藤北御所房 沢田書店
○赤尾頭文堂 文藻堂
○東方書店 八木書店
○キクオ書店 文苑堂書店
○谷書店 三密堂書店
○藤井文政堂 山崎書店
○福田屋書店 井上書店
○外山書店 石川古本店

恒例 秋の古本まつり
準備着々と進む!
卷頭言に京都古書店の皆さん、
お馴染みの庄林先生にご登場いた
だきました。校正の途中、あの柔
和なお顔がちらつき文章に先生の
映画も昔は名作が大ヒットしまし
たがテレビ、ポルノといったもの
により衰退の道をたどり今や名作
もヒットしない時代となりました。

第五回近鉄古書籍即売会
七月二二日より七月二八日迄
第七回丸善特選古書展示即売会
九月二九日より十月二日迄

即売会案内
第五回近鉄古書籍即売会
七月二二日より七月二八日迄
第七回丸善特選古書展示即賣会
九月二九日より十月二日迄

即売会案内
第五回近鉄古書籍即賣会
七月二二日より七月二八日迄
第七回丸善特選古書展示即賣会
九月二九日より十月二日迄

即賣会案内
第五回近鉄古書籍即賣会
七月二二日より七月二八日迄
第七回丸善特選古書展示即賣会
九月二九日より十月二日迄

投稿原稿求む

本誌では、ご購読の皆様に投稿原稿を求めております。

「私と京都の古本や」

「私の藏書」(この大切な一冊)
というような課題で、原稿用紙二~三枚程度で編集部又は、京都古書研究会加盟店へお届け下さい。

1) フリートウッド；英國金銀貨幣（2版）

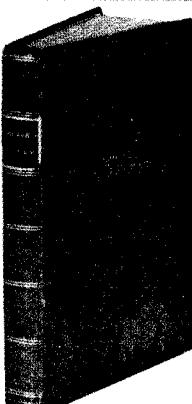
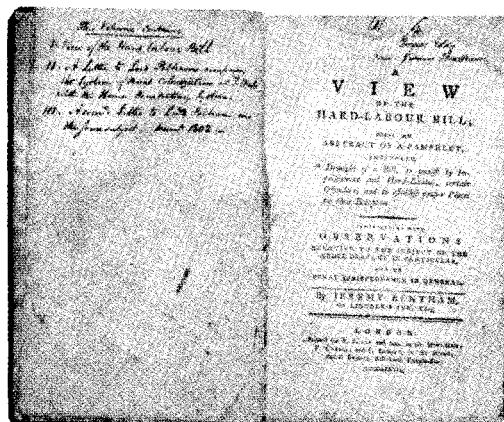
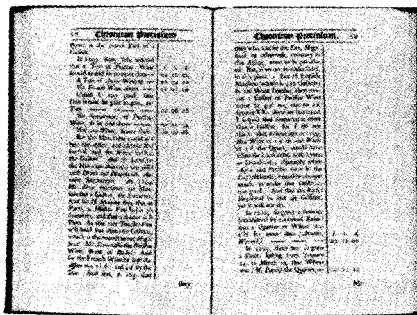
FLEETWOOD, Bishop William:

CHRONICON PRECIOSUM; Or, an Account of English Gold and Silver Money; The Price of Corn and other Commodities; and of Stipends, Salaries, Wages, Jointures, Portions, Day-Labour, &c. in England, for Six Hundred Years last past:..... London: T. Osborne, 1745.

Second and Best-Edition, 8vo, pp.(x),147,(2) index.

(1) advertisement, 30 appendix, 12 engraved plates depicting the history of coinage, several textual tables, contemporary, speckled calf, red morocco label spine neatly repaired, corners a slightly chipped, little rubbed, but a Fine Copy internally.

¥100,000

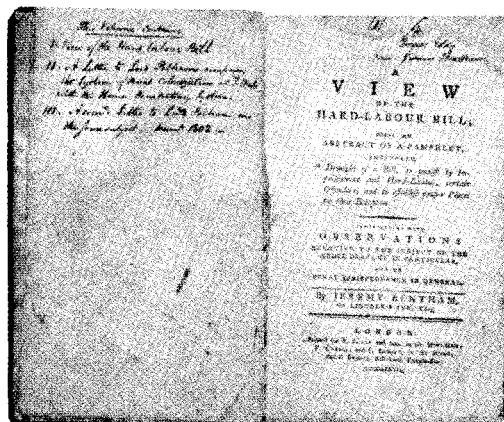


2) ベンタム；苛酷労働法案（初版）

BENTHAM, Jeremy:

A VIEW OF THE HARD-LABOUR BILL; Being a Pamphlet Intituled, "Draught of a Bill, to Punish by Imprisonment and Hard-Labour, Certain Offenders; and to Establish Proper Places for their Reception." ...London: T. Payne[et al.], 1778.

FIRST EDITION, 8vo, pp.(ii),xiii,(vii), 114, ¥650,000



3) グルンプ；雇用供与の最善の方法（2版）

CRUMPE, Samuel:

AN ESSAY ON THE BEST MEANS OF PROVIDING EMPLOYMNT FOR THE PEOPLE. To which has adjudged the prize proposed by the Royal Irish Academy for the best dissertation on that subject. London: 1795.

Second Edition, 8vo, pp. xxviii, 339, half-title, contemporary sheep, Fine Copy, bookplate of the Cullen House Library.

¥80,000

〒530

大阪市北区芝田一丁目六番二号
阪急古書のまち

株臨川書店 大阪店

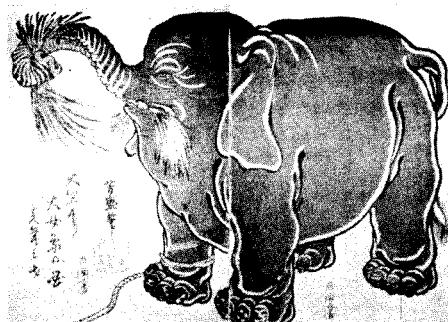
営業時間 午前十一時～午後八時 定休日 毎週水曜日

振替電話 (○六)三七四一一二三〇〇番

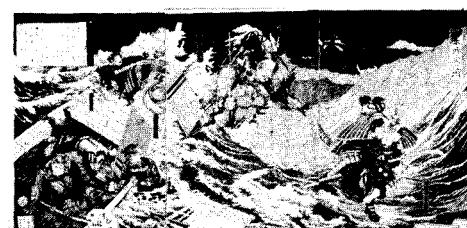
京都 八〇〇番



稻富流砲術伝書 寛永十年
¥25,000



天竺下り大女象之図 芳盛画 2枚揃 ¥250,000



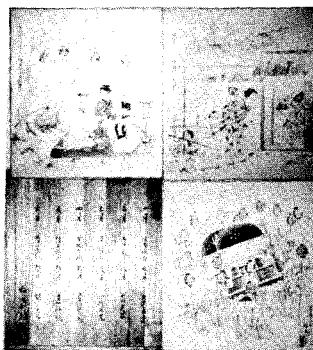
日本外史の内 義経八艘飛之図 清親画 三枚揃
¥150,000



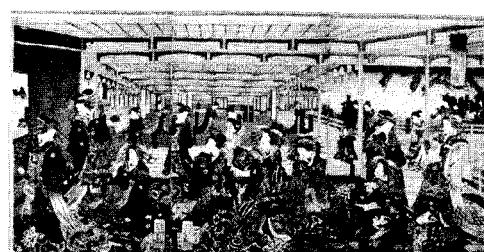
平忠度 清親画 三枚揃
¥100,000



三国志長板橋之図 国芳画 三枚揃
¥50,000



内田稻葉筆 色紙 浪華情趣
十二ヶ月・共箱入(箱書)
12枚揃 ¥200,000



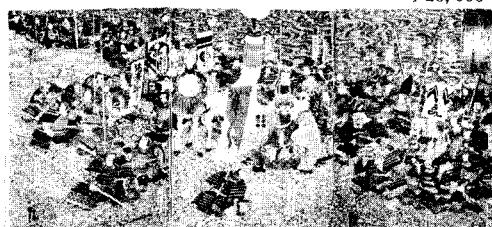
新島原梅ヶ枝街 三河樓之図 芳幾画 三枚揃
¥65,000



新吉原本品川屋楼之図 国輝画 三枚揃
¥40,000



仁田四郎富士ノ真身ヲ見ル図 延一画 三枚揃
¥25,000



川中島大合戦・信玄・勘助之図 国芳画 三枚揃
¥45,000

〒601 京都市中京区寺町通錦上ル

大書堂

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

古書籍 東方書店

電話(075)四九一一二〇七一

1 海外学生事視察団復命書	昭和第一回 南支那、香港 比津賀	台湾総督府	大15	二〇,〇〇〇
2 生徒指導の事例とその考察	外山正一 背イタミ	文部省	昭42	四,〇〇〇
3 教師論	沼柳政太郎	昭38	五,〇〇〇	
4 菅公小伝	井上哲次郎	昭33	八,〇〇〇	
5 国民教育憲法大意	穗積八束	明34	三,〇〇〇	
6 教育学速記録	谷本富	明31	五,〇〇〇	
7 藩閥之将来附教育の大計	外山正一 背イタミ	明32	八,〇〇〇	
8 家事研究大系 第一巻食養篇	甲斐久子	明33	七,〇〇〇	
9 教育評価のための統計法	四方実一	明34	七,〇〇〇	
10 道徳教育	日本倫理学年報第一集	明35	一〇,〇〇〇	
11 読書法	沢柳政太郎	昭40	四,〇〇〇	
12 文章心理學	波多野完治	昭39	三,〇〇〇	
13 小児養育の心得	長浜宗信	昭38	三,〇〇〇	
14 教育心理学	高島平三郎	昭37	二,〇〇〇	
15 小集团	青井和夫	昭36	二,〇〇〇	
16 国民学校と児童の学習	青木誠四郎	昭35	二,〇〇〇	
17 カバレー校長学	岡本春三訳	昭34	二,〇〇〇	
18 児童衛生	岡田道一	昭33	二,〇〇〇	
19 体育衛生統計類纂	吉田章信編	昭32	二,〇〇〇	
20 学令児童智力検査法	三田谷啓	昭31	二,〇〇〇	
21 新教育体操	大谷武一	昭30	二,〇〇〇	
22 体操科の指導	宮田寛造	昭29	二,〇〇〇	
23 新體育	尋一新算術指導精義(上)	昭28	二,〇〇〇	
24 明治体育史の研究	池松良雄	昭27	二,〇〇〇	
25 現代の作法	能勢修一	昭26	二,〇〇〇	
26 家事新教授法	甫守謹吾	昭25	二,〇〇〇	
27 新体婦女鑑	石沢吉磨	昭24	二,〇〇〇	
28 道徳的理想的教育の原理	金子元臣	昭23	二,〇〇〇	
29 児童図書心理学	関衛	昭22	二,〇〇〇	
30 学校観	二宮源兵	昭21	二,〇〇〇	
31 日本国の教育百年	神戸第二神港商業校	昭20	二,〇〇〇	
32 中学校学習指導要領(試案)	日本文部省時報版	昭19	二,〇〇〇	
33 文部省英語編	昭18	二,〇〇〇		
34 文部省	昭17	二,〇〇〇		

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34
69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	
68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34		
67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34			
66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34				
65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34					
64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34						
63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34							
62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34								
61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34									
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34										
59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34											
58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34												
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34													
56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34														
55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34															
54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																
53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																	
52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																		
51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																			
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																				
49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																					
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																						
47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																							
46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																								
45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																									
44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																										
43	42	41	40	39	38	37	36	35	34																											
42	41	40	39	38	37	36	35	34																												
41	40	39	38	37	36	35	34																													
40	39	38	37	36	35	34																														
39	38	37	36	35	34																															
38	37	36	35	34																																
37	36	35	34																																	
36	35	34																																		
35	34																																			
34	33																																			

書店は文注御へ

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5
労務者教育実施概要 昭八九 文部省二冊)
英國美術教育制度 文部省実業学務局 大1 五、〇〇〇

社会科学系
学術書専門

外と山書店

店

電話(075) 701-166-7

1 故事英語大辞典	宝文館	昭 30	一、五〇〇
2 世界教育事典	平塚 益徳監 同所	昭 47 30	二、五〇〇
3 国立教育研究所の30年	昭 54	三、六〇〇	二、〇〇〇
4 大学基準協会創立10年記念論文集	宝文館	昭 32	一、五〇〇
新制大学の諸問題・同協会10年史全二冊	同所	昭 45	一、〇〇〇
5 新しい大学設置基準—一般教育	文部省	昭 27	一、〇〇〇
6 デューリー研究	鶴見和子編	昭 27	一、〇〇〇
7 デューリー・民主主義と教育	改訂新版 帆足理一郎訳	昭 34	一、三〇〇
8 ドーラ江戸時代の教育	松居弘道訳	昭 46	一、五〇〇
9 吉田松陰	徳富蘆花郎	昭 16	一、五〇〇
10 二宮尊徳集	八木沢善次解題	昭 14	一、五〇〇
11 日本の成長と教育	長田 新	昭 9	一、五〇〇
12 日本教育源流考(福島政雄他)	小学校教育精神作興会 小林佐源治	昭 16	一、五〇〇
13 教育学	文政研究会編	昭 16	一、五〇〇
14 英雄教育法	昭 17	一、五〇〇	二、五〇〇
15 国民学校経営精義	昭 16	一、五〇〇	二、五〇〇
16 国民学校と家庭	昭 16	一、五〇〇	二、五〇〇
17 理論実践国民学校の研究	昭 17	一、五〇〇	二、五〇〇
18 教授原論—特に国民学校の授業	昭 17	一、五〇〇	二、五〇〇
19 実際教育論	鶴藤幾太郎	昭 13	一、五〇〇
20 修身教育の新体系	岩瀬六郎	昭 5	一、五〇〇
21 歴史教育論	新見吉治	昭 12	一、五〇〇
22 学校給食と献立の栄養学	原徹一	昭 10	一、五〇〇
23 新家事経済	井上秀子	昭 14	一、五〇〇
24 女性法律学	奈良正路	昭 7	一、五〇〇
25 全国上級学校年鑑	旺文社編	昭 52	一、五〇〇
26 國際交流と大学	関西学院大楚隆治	昭 28	一、五〇〇
27 商業教育	昭 27	一、五〇〇	二、五〇〇
28 労働運動と労働者教育をめぐる諸問題	柳田謙十郎先生喜寿祝賀論文集	昭 46	三、五〇〇

29 ヨーロッパの日本学	台湾總督府文教局	昭 5	一、五〇〇
30 ソヴィエトの日本語研究	寺川喜四男	昭 39	一、五〇〇
31 欧米諸国の実業補習教育に関する法令	文部省実業学務局	大10	三、五〇〇
32 台湾の教育	台湾總督府文教局	昭 31	三、五〇〇
33 全ヨーロッパの日本学	丸川仁夫訳	昭 13	四、〇〇〇
34 カルヴァコレッジ他・ロシア音楽の巨匠	秋沢修二	昭 23	一、〇〇〇
35 西洋哲学史	服部龍太郎訳	昭 31	三、〇〇〇
36 ローランベルグ・二十世紀の神話	丸川仁夫訳	昭 13	四、〇〇〇
37 デイルタイン・精神科学序説	三枝博音訳	昭 5	一、五〇〇
38 ローベンターリ・弁証法	秋沢修二	昭 23	一、五〇〇
39 ミーチン・弁証法的唯物論	(48P) 広島定吉訳	昭 21	一、〇〇〇
40 唯物弁証法入門	古田由重他	昭 21	一、〇〇〇
41 増訂六版ヴァントの心理学	須藤新吉	大13	一、〇〇〇
42 ヴァントの民族心理学	桑田芳藏	大7	一、五〇〇
43 改訂教育的心理学	小泉又二編	明43	一、〇〇〇
44 日本国才児の心理学的研究	大伴	昭36	一、五〇〇
45 平安時代政治史研究	森田悌	昭36	一、五〇〇
46 日本上代史の研究	津田左右吉	昭43	一、五〇〇
47 新編 明治精神史	内田銀藏	昭51	一、五〇〇
48 日本国生活の発達	色川大吉	昭54	一、五〇〇
49 八幡町誌	京都府綴喜郡八幡町同編集委	昭52	一、五〇〇
50 大龍寺史	山田宗睦	昭52	一、五〇〇
51 道の思想史 上下	太田悌藏	昭50	一、五〇〇
52 ひとのみち教団検査の真相	金生嘉造訳	昭51	一、五〇〇
53 チェーレン・領土・民族・國家	森岡一池上訳	昭43	一、五〇〇
54 サザーン・中世の形成	吉森実行	昭43	一、五〇〇
55 ブルナー・ヨーロッパ	橋浦泰雄	昭43	一、五〇〇
56 ヨーロッパ中世世界の構造	赤木須留喜	昭43	一、五〇〇
57 西洋中世世界の展開	細川龜市	昭43	一、五〇〇
58 同盟科学アカデミー・植民地	高島善哉	昭43	一、五〇〇
59 ティラー・第二次世界大戦の起源	細田永輔	昭43	一、五〇〇
60 吉田種夫訳	西村精一	昭43	一、五〇〇
61 中国人的思考基底	吉森実行	昭43	一、五〇〇
62 新中國の路線	吉田種夫訳	昭36	一、五〇〇
63 支那土地制度研究 政治・社会篇	宮川尚志	昭31	三、〇〇〇
64 支那土地制度研究 政治・社会篇	栗原明信	昭35	三、八〇〇
65 支那土地制度研究 政治・社会篇	光岡玄他	昭50	三、五〇〇
66 支那土地制度研究 政治・社会篇	陸軍山岡部隊	昭19	五、〇〇〇
67 支那土地制度研究 政治・社会篇	企画院編	昭17	四五〇〇
68 支那土地制度研究 政治・社会篇	松島博	昭33	三、五〇〇
69 華僑經濟論	吳主惠	昭36	三、五〇〇
70 南洋華僑の研究	福田省三	昭14	三、五〇〇
71 鄭・福建華僑の送金(改装本)	興中公司	昭12	三、五〇〇
72 華僑本質の分析	満鉄訳	昭18	五、〇〇〇
73 中国の記	松島博	昭33	三、五〇〇
74 日中非友好の歴史	福田省三	昭14	三、五〇〇
75 中国人の日本人観—一〇〇年史	光岡玄他	昭48	三、五〇〇
76 増補中国人日本留学史	昭50	三、五〇〇	二、五〇〇
77 社会習俗篇	吳主惠	昭45	五、〇〇〇
78 思想文化篇(1)(2)二冊	松島博	昭19	一、八〇〇
79 アジア人名辞典総合アジア年表	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
80 日本固有法の精神	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
81 行政責任の研究	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
82 全国民事慣例類集	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
83 五人組制度新論	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
84 法律学の基礎觀念	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
85 日本固有法の精神	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
86 新しい愛國心	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
87 ハワイを繞る日米関係史	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
88 ロシヤ文学研究	昭19	一、八〇〇	二、五〇〇
89 トムソン他現代革命へのアプローチ	昭21	一、八〇〇	二、五〇〇
90 同盟科学アカデミー・植民地	田村進編	昭22	一、八〇〇
91 ソ連の歴史	向坂逸郎編	昭37	一、五〇〇
92 従属国の歴史	園部四郎訳	昭29	一、五〇〇

93 ヨーロッパ中世世界の展開	堀米庸三	昭51	一、五〇〇
94 同盟科学アカデミー・植民地	田村進編	昭22	一、五〇〇
95 ソ連の歴史	向坂逸郎編	昭37	一、五〇〇
96 従属国の歴史	園部四郎訳	昭29	一、五〇〇

下 600 京都市下京区寺町通仏光寺

二密堂書店

電話 (〇七五) 三五一一九六六三
振替 京都 三四四七一

1 仏教大意	織田得能著	光融館 明36	一、吾
2 仏教原論	釋雲照著	博文館 明38	二、吾
3 仏様の印相をたづねて	秋山正美著	文進堂 昭48	四、七〇
4 詳説佛様の持るものと裝飾	秋山正美著	文進堂 昭47	三、八〇
5 西国觀音縁起集	蘆津実全編	慈眼会 明26	四、〇〇
6 三世の光(輸入種連米傳)	仏教文庫編	東方書院 昭6	一、〇〇
7 仏伝涅槃扇	多田鼎著	無我山房 明42	一、五〇
8 名僧の人生觀	人生哲學研究会編	越山堂 大14	一、吾
9 弘法大師伝	蓮生觀善編	金剛峯寺 昭8	六〇〇
10 傳教大師	半井桃木編	丙午出版 大10	二、吾
11 加持祈祐祕密大全	小野清著	大文館 昭37	二、〇〇
12 法華經講義	織田得能著	光融館 昭4	三、〇〇
13 新詵法華三部経	蓮見達雄著	北斗書院 昭11	二、〇〇
14 中論と他力信仰	稻津津三著	大東出版社 昭8	二、〇〇
15 平易に説いた維摩經	武田默全著	近江屋 昭改版	二、〇〇
16 會本選擇傳弘法疑經	五郎備 沙良忠達著	盛文館 昭8	二、〇〇
17 蓮如上人	須藤光暉著	中央出版社 昭3	二、〇〇
18 真宗教義大觀	中島寛亮著	法藏館 昭5	二、〇〇
19 行教信證自釋管窓	住田智見著	尾張宮 昭6	二、吾
20 人・佛歎異抄新註	金子大栄著	在家仏教 昭31	一、吾
21 秀存語錄	佐々木月樵	法藏館 昭40	二、〇〇
22 香樹院自警清話	太富秀賢編	平榮寺 昭15	一、吾
23 香雲院澄玄師語錄	多屋頼俊著	護法館 昭45	一、〇〇
24 周易象意秘解	竹越徹道編	京都大典著	一、〇〇
25 邦文易經	松原宏著	文政堂 昭14	六、〇〇
周易	高森良人著	金の星社 大15	六、五〇
趣味の易学	安元實哲著	大東社 大16	六、〇〇
易学早まなび	陽新堂主人著	神易館 昭7	三、五〇
易学大講座八冊揃	加藤大岳著	紀元書房 昭五	五、〇〇
邦文易經	田畠大有著	天行居 昭41	五、〇〇
易經	藤波幽堂著	昭39	二、吾
易經(中國の思想内)	丸山松幸著	大東出版 昭9	一、〇〇
運勢大辭典	藤波幽堂著	昭42	一、〇〇

出町と衣笠

下 602 上京区河原町通今出川上ル
電話 (〇七五) 二三一〇七七一
北区西大路通平野神社北隣
電話 (〇七五) 四六二一三三七一

衣笠店

五術占い全書
二冊揃 張羅文 佐藤六郎 文研出版 昭昭47
推命術を方法とする行動哲學
火山博編述 行動哲學所 昭昭47

株善書堂

下 603 上京区河原町通今出川上ル
電話 (〇七五) 二三一〇七七一
北区西大路通平野神社北隣
電話 (〇七五) 四六二一三三七一

出町店

五術占い全書
二冊揃 張羅文 佐藤六郎 文研出版 昭昭47
推命術を方法とする行動哲學
火山博編述 行動哲學所 昭昭47

文藻堂

丁604

京都市中京区新烏丸通竹屋町上
電話(〇七五)二三一ー一九一四4 河東碧梧桐 短冊 柿をもぎそめて地に垂る、枝の日向にまいる
美一一五、〇〇〇円

- 1 岡麓 短歌幅小品 自題共箱 絹三段装(本紙巾 12.5×25.5
朱地料紙白色下絵 美幅 五〇、〇〇〇円

火天の橋に風道ありひより庵
わき子のり、波よに波千代
えす

5 水落露石 短冊 よしの川なたの急渦に點かけ人の構造を美
舟遊 一〇、〇〇〇円

6 大谷句佛 短冊 凉しきに念佛まうす夏百日 美一三、〇〇〇円

春はいま桜の
あとの藤ばたん
くさ花ときに
うづりゆくなり
麓

月光漁辺の
犬の吠えらへて人ゆく
きニ

7 小沢武一 短冊 月の浜辺の犬に吠えられて入ゆく 美五、〇〇〇円

涼一さん念佛
わき子のり、夏百日

8 相島虚吼 短冊 炎天の橋に風道ありにけり 美五、〇〇〇円

火天の橋に風道ありひより庵
わき子のり、波よに波千代
えす

2 山口誓子 色紙 美三五、〇〇〇円
寒き海溝りはそこに寄りてする
誓子同

3 富安風生 色紙 一二三、〇〇〇円
千松居 佳き絵かけ黒潮の海を賛嘆超
風生

9 寒川風骨 短冊 わき子にあた波する沙千哉 美五、〇〇〇円

火天の橋に風道ありひより庵
わき子のり、波よに波千代
えす

10 皆吉翠雨 短冊 夜まとるや五色団扇の我は青 美五、〇〇〇円

仏像図鑑 石仏入門 板碑入門

円山達音著／密教理解に不可欠の法門、陀羅尼(ダラニ)や真言は仏・菩薩の功德や教説などの深い意味をあらわす。本書は真言・ダラニを理解するための古典的手引書。研究者、僧侶座右の名著！
A5・上製函入 定価三八〇〇円

日下部朝一郎著／細密な解説と三百〇余点の写真図版による石仏及び石造仏教文化遺物についての入門書。
A5・上製函入 定価二〇〇〇円

小沢国平著／多種多様で数の多い埼玉県所在の板碑の写真・図版を用いて解説した数少ない板碑関係の入門書。
A5・上製函入 定価二〇〇〇円

国訳秘密儀軌編纂局編／常識としての仏像の名称、相容、誓願、功德、印相、真言等を解説し、仏多様を示した。
定価九五〇〇円

真言の教学全二巻 陀羅尼字典

円山達音著／密教理解に不可欠の法門、陀羅尼(ダラニ)や真言は仏・菩薩の功德や教説などの深い意味をあらわす。本書は真言・ダラニを理解するための古典的手引書。研究者、僧侶座右の名著！
A5・上製函入 全二巻 捩価一六〇〇〇円

稻谷祐宣編／真言宗所依の經・論、弘法大師の著作等から法号に適する語句六万余語を収録。字義の詳しい説明、仏教語としての意味や密教的用例も詳細に解説。真言宗僧侶必備の書！
B5・豪華愛蔵本 定価一八〇〇円

真言宗法号大字典

国書刊行会

*注文制です。お近くの書店にお申し込み下さい。
〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18 電話03(917)8287

最近刊書ご案内

増補 白楽天と日本文学

水野平次著
藤井貞和補注著

守護城下町の研究

松山宏著

じやうるり

十六段本

横山信多純重編著

願と信

安田理深著

A5判

三〇頁

価

二、八〇〇円

三〇〇円

山陰の土壤に育ったロマンチズムを、学仏道の思念に燃焼しつくして、旧き真宗教団の中に清冽な求道心の新しき流れを鼓吹し、しかも一生涯を闇思する「書生」として在野の生活を貫き通した人、安田理深先生。その求法の情熱的思索が、農家の無名の念佛者たちに感銘をもつて聞きとめられた記録が、「依法不依人」の興法の志願を叫んでいる。

小野蓮明著(天台大学助教授) — 親鸞の主体性論 —
A5判四三〇頁 価六,〇〇〇円 三三五〇円
氣鋭の真宗教学者である著者が、親鸞によって明らかにされた浄土真宗なる仏教における信仰的主体の内面を、人間における根源的主体性の確かめとして捉え、救済の本義を解明にした労作。

文栄堂書店

〒604 京都市中京区寺町通三条上る
振替京都 8-2948 TEL 231-4712

大学堂書店

京都市中京区河原町通三条下る TEL 075(221)5063

杏雨書屋蔵書目録

森鹿三・羽田明監修/武田科学振興財団杏雨書屋編

「杏雨書屋」は六代目武田長兵衛氏によつて財団法人武田科学振興財団に寄贈された文庫で、本草を中心とする古医薬書の資料館としてその収集の質・量は東洋一といわれている。蔵書の範囲は古医薬書のみならず、動植物・鉱物・化学をはじめ、博物・物産・書誌・蘭学・地誌・国史・東洋史・科学技術史などの諸分野に及び、特に本目録で始めて公開されるものが多々ある。

■主な蒐書

早川氏菴著書屋旧蔵書／藤浪氏乾々斎文庫（曲直瀬家・宇田川家の伝来本）／三木文庫／佐伯文庫／中尾文庫／藤田文庫／武生奥村文庫／渡辺文庫／楳林宗建伝來書／恭仁山荘旧蔵書／小野蘭山自筆稿本類／江馬務家伝來の蘭学関係書等々の国宝・重文を含む貴重コレクション



好評発売中

一般頒布 限定600部

杏雨書屋

臨川書店

本社 東京支店 千代田区飯田橋四丁目七番六号ビル 50M 03-705-263781-4-632200

- 体裁 B5判・パララム装・貼箱入
- 本文 9ボ(92頁)二段組・948頁
- 人名索引 8ボ三段組・100頁
- 定価 全一冊 27,000円
- 〈内容見本送呈〉

別巻

書簡・伝記資料篇 全一巻 旭莊書
翰集(新編)・文敏公年譜/他

■ 定価 約14,000円

能勢朝次著作集 全十巻

能勢朝次著作集編委員会編 中世文学研究
能楽・その大成者世阿弥について最も基礎的な考え方を捉え、連歌・俳諧・芭蕉にも関しての先駆的な研究をなし、著者の論考を全十巻の著作集として刊行。

連歌俳諧研究

第四回配本8

▼ A5判・四五〇頁/定価五、四〇〇円
全巻予約特価五、二〇〇円

■ 定価 一二、〇〇〇円

⑩⑨⑧⑦⑥⑤④③②①
能勢朝次著作集編委員会編 中世文学研究
能樂・その大成者世阿弥について最も基礎的な考え方を捉え、連歌・俳諧・芭蕉にも関しての先駆的な研究をなし、著者の論考を全十巻の著作集として刊行。

廣瀬旭莊全集 全十二巻・別巻

第一回配本 日記篇

日記篇 〈日間瑣事備忘〉全九巻

天保四年(文久三年迄)暮末の騒然たる社会状勢、儒林の往来、人物評などを克明に綴る日記。當時各界の当名家がことごとく登場し、我が国の當時を知る史料としても特筆される。

詩文篇 全一巻 梅墩詩鈔・東遊稿
西遊紀行・旭莊文集(新編)

隨筆篇 全一巻 九桂草堂隨筆・塗説・明史小批・昭穆考/他

書簡・伝記資料篇 全一巻 旭莊書
翰集(新編)・文敏公年譜/他

■ 定価 約14,000円

* 本文は国立公文書館内閣文庫所蔵本を底本とし、南禅寺慈氏院により校訂、健仁寺西足院所蔵別抄本により適宜補う。
* 原漢文を書き下し文に改め、読み仮名・注を付す。

思文閣出版

本社 京都市左京区田中閑田町2-7
(075) 751-1781
〒606

支社 東京都千代田区三崎町2-20
(03) 263-6348
〒101